

健康 ぶらざ

レビー小体型認知症

— 合図は物忘れだけではありません —

指導：横浜市立大学医学部 名誉教授 小阪 憲司

企画：
日本医師会

No. 437

物忘れで始まることはまれ

認知症と聞くと、代表的な症状は「物忘れ(記憶障害)」と思われがちです。それは認知症のなかでも最も多い「アルツハイマー型認知症」のことで、次に頻度の高い「レビー小体型認知症」の場合には、物忘れで始まることはまれです。



多彩な症状があらわれる

レビー小体型認知症の症状には、日や時間により頭がボーっとするときと、ハッキリするときがあるという「認知の変動」以外に、他人には見えない人や小動物や虫などが見える「幻視」やそれに基づく「妄想」があらわれたりします。また、睡眠中に夢を見て大声で怒鳴ったり叫んだりして布団のうえで手足をバタバタさせたりする「レム睡眠行動障害」、気分が沈む「抑うつ」、動作が鈍くなる・小股で歩く・バランスがとれず転びやすい・手が震える「パーキンソン症状」、頑固な便秘・頻尿・過度な発汗・立ちくらみをおこす「特発性自律神経障害」などがみられます。

早期の的確な診断と治療が大切

このように始まりの症状がさまざまなので、うつ病、統合失調症、老年期精神病やパーキンソン病、自律神経障害などを見分けが付きにくいのですが、物忘れが目立つ前に、適切な治療や対処をすることが特に大切です。気になる症状があったら、かかりつけの医師に相談し、専門医の診断を受けましょう。